

井上あきら

大阪府議会議員 府政短信(28)

皆様のご意見をお聞かせください



福祉医療費助成削減を撤回

議会修正の動きが引き金に

橋下知事は財政再建策のひとつとして、市町村とともに実施している、老人・障がい者・ひとり親家庭・乳幼児医療の福祉医療助成制度改正を提案しました。

財政再建はムダ使いから改め、弱い立場の府民を対象とするには問題が多

く、障害者団体などからの陳情を聞かせていただく中

小規模事業経営支援補助金も削減幅を圧縮

で改めて、財政削減のしわ寄せを福祉医療に及ぼしてはならないと考えていました。

議員団はそうした意見を

参考に検討を重ね、議案を修正し負担軽減を図ること

を各会派に提案していただき、当局が自らの判断で



議員団での検討会(井上は手前です)

撤回された、橋下知事提案の厳しい福祉医療助成制度の見直し案

- (1) 乳幼児医療助成のみ所得制限する。(削減額 1.3 億円)
収入ベースで80万円引き下げ、約780万円の児童手当基準にする。
- (2) 日数に変更は行わない。
1 医療機関で負担する日数は現行のまま、月2日とする。
- (3) 自己負担単価を通院は 800 円以内、入院は 2,500 円/月とする。(削減額 13.8 億円)
制度の根幹である月2,500円の自己負担上限額は変えないが、1 回利用を500円から800円に引き上げ。
- (4) 救急医療機関での休日・時間外診療の加算を 500 円とする。(削減額 0.5 億円)

府庁は現庁舎を継続使用

橋下知事の「WTC移転を進める」との表明以来、議

会でも大変な議論となりましたが、移転条例の可決には3分の2の賛成が必要であり、投票の結果、可決されませんでした。そのため今後はあらためて現庁舎の耐震工事を進めることになりました。

(現在の大阪府庁舎)

ごあいさつ

日頃からご支援たまわりありがとうございます。元気に府議会で活動を続けさせていただいています。

21年度の予算編成は「大阪府・2,300 億円歳入不足」とのショッキングな報道で始まりました。

昨年からの世界同時不況は底を知らず、大阪に立地する企業を直撃しました。

府の財政収入は法人からの税に大きく依存していますので、景気の動向によって大きく変化します。また、堺に建設中のシャープ工場なども建設が先送りされたり、生産が縮小したりすることも考えられ、雇用にも影響が出ることもあり得ます。

幸い、21年度予算は交付税の増額や 20 年度の黒字があり、昨年よりも増額予算となりました。しかし、関西の景気浮揚をどのように進めるのか、府民へのセーフティーネットをどのように確保するかなど多くの政策課題が山積しています。私もしっかりと議論し、皆様のご期待に応えてまいります。

府庁移転について、私は 100 年後の大阪のあるべき姿を考え、現庁舎と大阪市所有のWTCビル(大阪市住之江区)との比較から、WTC移転を選択いたしました。3分の2の多数とならず、廃案となりました。

また、昨年議会基本条例が施行されました。私にとっては十分な内容とはいえませんが、最低限の要件は満たしており、今後の運用がもっとも大切と考えます。

知事と議会の関係が大きく変わることをご期待ください。

最後になりますが、今後とも変わらず、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

平成 21 年 4 月

井上 章

<<水都おおさか



平成二十一年度大阪府予算ならびに条例提案に対して議員団の態度を明らかにしました。

議員団を代表して討論

府立児童文学館移転条例に反対

修正することになりました。同時に、商工会議所で行われている小規模事業経営

の増額修正となりました。支援事業についても、削減幅を圧縮し、一億二千万円

(東大阪市)での運営形態をめぐって議論が行われましたが、移設反対の表明を行いました。